

中一国語科通信 第五回

口を動かしていきますか？

みなさん、こんにちは。昨日の課題配布登校日は、全員が来てくれました。生徒手帳の写真を撮ることができたのはもちろんですが、それ以上にうれしかったのは、みなさん全員の顔が見られたことです。お家の人のご協力により、みなさんが元気に梅中に来てくれたのは、とてもうれしいことでした。これは、一学年教員全員の気持ちです。みなさんには、先週の課題などを提出してもらつたり、来週までの課題やワークを配つたりした後、写真を撮りましたが、どのような気持ちになりましたか。少しずつではありますが、梅中の準備を一緒にしていきましょう。

また、昨日受け取った課題を見ましたが、思った以上によくやつてくれていたのをうれしく思います（出し忘れてしまつた人は、次の登校日に持つてきてくれれば大丈夫ですよ）。課題によつては、分からぬことがあります。そんな時は学校に電話をしてもらつてもいいですし、電話をするのはちょっととどいています。時には、プリントに「ここが分からぬ」と書いてくれれば対応したいと思いますので、書いてくださいね。

さて、二月から臨時休校がずっと続いている状態で、家の外に出る機会も減り、家族以外の人と会うことが少ない毎日を送っているみなさん、今の状態はちよつと、いや、かなりストレスがたまつてている人もいるのではないかでしようか。学校で友達とおしゃべりしたり、元気に走り回つたりするのは、あともうしばらくの辛抱です。

そこで、今回の第四回目の学習プリント課題は、『口の体操』・『早口言葉』です。最近、体だけではなく、口を動かすことも減つてているのではないか。先生達も今は授業をすることができないので、口を動かすことが格段に減っています。このままでは、まづいなと思い、みなさんに配つたものなどを使って口の体操をしていきます。

ここで、大切なのは、『意識』です。ただ書いてあるものをとりあえず読むのではなく、「アナウンサーになつたつもりで」とイメージすることで、「口を大きく開けよう」や、「しつかり发声しよう」などと意識することができます。そうすると、読む時の姿勢も変わってきます。テレビを見て分かる通り、猫背のアナウンサーはいませんから、口を大きく開けるだけでなく、自然と背筋を伸ばして読むことができるのではないかでしょ

うか。その上で、「リズミカルに」、「はきはきと」が意識できると、読んでいても、聞いていても楽しい声だし練習になるでしょう。

さらに、**十1レッスン**^{プラスワン}です。

あくまでも、『口の体操』や『早口言葉』は、ウォーミングアップです。これで口がうまく動くようになつたと思いますので、余裕のある人は、自分の好きな文章（本でも、新聞でも、あるいはお気に入りのマンガでも）を持ってきて、声に出して読んでみましょう。小説やマンガならば、地の文と台詞で声の調子を変えたり、新聞ならばそれこそアナウンサーになりきつて読む練習をすると、頭も心もすつきりすると思います。ぜひ、やつてみてくださいね。ただ、それぞれお家の事情もあります。周りの人の迷惑にならない声の大きさを心がけましょう。



【読書のとびら】

昨日、国語の課題プリントと音読カードを提出してもらいましたが、音読カードの裏にある読書カードに自分の読んだ本の題名や一言感想を書いている人が何人かいました。まだざつとしか見ていませんが、これからじっくり読むのを楽しみにしています。

さて、今回紹介する本は、小説ではありません。**クラフト・エヴァイング商會の『ないもの、あります』**^{（くま文庫）}という本です。

クラフト・エヴァイング商會店主のあいさつによると、「よく耳にするけれど、一度としてその現物を見たことがない」、そんなものを古今東西より集めて、紹介している本だそうです。たとえば、「堪忍袋の緒」。いつたいこれは、どんなものでしょう。そもそも、壳り物なのでしょうか。そんな疑問をもつたあなた、ぜひひこの本を手にとつて、店主の解説を読んでみてください。この店主、なかなか独特的の感性をもつており、語り口がひょうひょうとしていますが、いつの間にか解説に引き込まれてしまうでしょう。もしかしたら、あなたお気に入りの、「ないもの」が、このお店で見つかるかもしれません。何しろ、このお店には、店主がセレクトした他とちよつとちがう品物が26品もあるのですから。